

【研究動機】

日本プロ野球は長きにわたって、日本におけるナンバーワンのスポーツエンターテインメントであり続けてきた。しかし、そのプロ野球がどのようなマネジメント手法によって成り立っているのかについて、明らかにする資料は少ない。本論文では、日本プロ野球を統括する日本野球機構(NPB)におけるリーグマネジメントの手法について明らかにし、その改善点を明らかにすることを目的とする。また関連するテーマとして、近年国際化が進む野球競技の海外への普及・市場拡大活動や、その一環としての国際大会への選手派遣も論じることとする。

【各章の要約】

本論文においては「NPBにおける組織構造」「機構の赤字体質」「国際大会への選手派遣」「国際的な野球の発展に関わるNPBの貢献」という4つのキー概念を用いて、NPBのマネジメント手法について、全3部構成で考察を行った。

第二章では、それぞれのキーワードが指し示す、日本プロ野球の現状について明らかにした。主な論点は、NPBはアメリカ大リーグ(MLB)とは異なりレベニューシェアリングの制度を導入しておらず、これが戦力の均衡や、リーグの赤字体質の改善を妨げているというものである。また、近年の各種国際大会などにおける、ヨーロッパ諸国の急速な成長や、その背景として存在するヨーロッパ地域独特の野球文化、およびその現状についても論じた。

第三章では、それぞれのキーワードに関して、現状のNPBや日本球界が抱えている問題点を挙げた。ここでは、(1)コミッショナーのリーダーシップの欠如(2)歴史的経緯が与える日本代表の編成や強化への悪影響(3)海外普及と新規市場開拓に打って出る経済的余裕と、途上国出身選手を受け入れる体制の欠如という3点について論じた。

【おわりに】

第四章において述べた本論文の結論は、大きく分けて以下の4つに集約される。(1)レベニューシェアリングの導入によって、赤字体質改善と共存共栄の体質構築が必要であること(2)コミッショナーには、職務執行にあたって現在よりも強力な権限を与える代わりに、その濫用を防止するため、適切な権力行使に基づいたチェック機能を導入することが必要であること(3)野球の国際化に向けて、日本代表の強化を一貫した形で行うため、プロアマ間の行き来における、制限の撤廃を含めた見直しが必要であること(4)野球の海外普及においては、単に善意のみを基にして行うのではなく、リーグ自身の市場開拓と拡大という、自らの利益をも追及していく必要があること。

【課題】

本論文の執筆にあたっては、特に国際的な野球の現状や、その普及といったテーマに関しては、頼ることのできる文献がほとんどなく、そのほぼ全てをリーグやクラブの公式サイトや、協会ウェブページなどのネット文献に頼ることを余儀なくされた。今後このような分野においても、特に日本国内において、さらなる研究が進展し文献が増えていくことを強く望みたい。

今回、リーグのマネジメント手法について、論文執筆を通じて考察を行ったのは、将来的にプロ野球のコミッショナーとして、日本球界全体を動かしていくことが、筆者自身にとっての将来的目標であったためでもある。この研究成果を、単に学術の分野に閉じ込めておくのではなく、実際のスポーツビジネスの現場においても有効に用いることができるよう、これからの人生においても生かしていきたいと考えている。